

愛車を傷から守る、新発想。

日産初の「プロテクションシールド」誕生ストーリー

アウトドアがもっと楽しくなる。「SOTOASOBI パッケージ」

「クルマだって、そとあそびの“ギア”になれる。」



SOTOASOBI パッケージ

そんな発想から生まれた、日産の新アクセサリパッケージ「SOTOASOBI パッケージ」。

アウトドアシーンに映えるタフなデザインと、実用性を両立したこのパッケージには、個性的なエンブレムやフェンダーガーニッシュなど、魅力的なアイテムがラインアップされています。

その中でも、特に注目を集めているのが、日産初となる純正の「プロテクションシールド」です。



プロテクションシールド

プロテクションシールドって何？

プロテクションシールドは、愛車のボディを守るために開発された高性能フィルム。汚れや水をはじき、紫外線や風雨にも強く、5年以上の高い耐久性を誇ります。日々の運転で避けられない飛び石や砂、泥などから車を守りながら、アウトドアでも快適なカーライフをサポートします。

開発のはじまりは、「塗装に代わる選択肢」だった

近年、車づくりにおいて、2 トーンカラーなどのカラーバリエーションのニーズが高まっています。

しかし、2 トーン塗装を実現するには通常の塗装工程を 2 度行う必要があり、作業時間の増加や歩留まりの悪化といった生産上の課題を抱えていました。

また環境への配慮からも、塗料の使用量を減らす工夫が求められる中、これらを解決する新たな「塗装の代替」の手法として、フィルム技術の研究がスタートしました。

世界の過酷な環境を調査。開発者のこだわり

プロテクションシールドの開発に携わったのは、車両材料開発グループの二又洸太。

「自信を持ってお届けできる商品です」と語るその言葉の裏には、世界各地での綿密な現地調査に基づいた深い知見とこだわりがありました。



車両材料開発グループ 二又洸太

例えばドバイでは、ほぼ毎日のように発生する砂嵐の中で、高圧洗浄による車両の洗浄が当たり前のように行われています。こうした環境では、ボディの表面は常に過酷な状況にさらされるため、フィルムの耐久性が非常に重要になります。

また、タイのような高温多湿な気候では、湿気や熱への耐性が求められますし、アリゾナでは強烈な日差しにさらされ続けるため、紫外線への強さも欠かせません。

さらに、寒冷地である北海道・陸別やアメリカ・デトロイトでの調査では、氷点下の環境下でフィルムがどのような状態になるのか、低温時の使用における影響を確認しました。

世界各地の気候や環境を実際に見て・知って・確かめた経験は、製品の耐久性や実用性の向上に大きく貢献しました。それらを反映したからこそ、日常もアウトドアも安心して楽しめる品質が実現したのです。

「そこまでやる？」という実験の数々

プロテクションシールドの品質を裏付けるのは、開発時に行われた数々の厳しい実験です。

塗装・防錆技術開発グループの辻啓太は、当時をこう振り返ります。

「普通の塗装でここまでやることはあまりない。でも、だからこそ自信を持って勧められる商品になったんです」当初は“塗装の代替技術”としての位置づけだったこともあり、従来の塗装と同等以上の耐久性が求められました。

そこで実施されたのが、日産社内で行われる「複合耐久性実験」、通称「いじわる実験」。これは、通常の耐久性試験に加えて、複数の過酷な条件を組み合わせることで、実使用環境よりもさらに厳しい状況を人工的に再現し、製品の限界に挑むような試験です。

「そこまでやる？」と思うような内容も含め、50 項目近くの検証を積み重ねました。

その結果、自身も「身近な人にも誇りを持って勧められる」と語るほどの、信頼できる品質が確立されました。



塗装・防錆技術開発グループ 辻啓太

実現を後押しした“現場の声”と“想い”

開発の最終フェーズで製品化を担ったのは、グローバルアクセサリー部の三浦剛。



グローバルアクセサリー部 三浦剛

素晴らしいフィルムは出来たのですが、商品としてお客様にお届けするにはまだ課題がありました。通常のフィルムの製造方法では実現が難しかった均質な質感は、フィルム製造メーカー様の協力により実現できたものです。また、

ここまで大きなフィルムを、ディーラーオプションとしてお客様にお届けするためには、アクセサリの装着現場での施工方法を考える必要がありました。作業の現場に何度も足を運び、作業者の方々の意見を伺いながら、満足できる品質で施工できるよう工夫を重ねました。

「当初、装着作業の現場からは厳しい声もあがりましたが、最後は皆さんがプロ意識を発揮して一生懸命に取り組んでくれました。製造の現場、装着の現場、多くの方の熱意により、お客様に商品としてお届けすることができました」と三浦は振り返ります。

機能や耐久性だけでなく、実際に“使える”状態で届けること。

そのために、関わる多くの人たちの力がひとつになり、プロテクションシールドは製品としてのかたちを整えていったのです。

クルマをもっと自由に遊ぼう

こうして生まれた「プロテクションシールド」は、ただのフィルムではありません。

アウトドアというフィールドで、クルマをもっと自由に楽しむための、新しい“ギア”のひとつです。



T33

E26

T32

これまでの常識にとらわれず、新しい価値を届けたい。そんな思いから生まれた「SOTOASOBI パッケージ」。その一部として、プロテクションシールドは、あなたのカーライフをより豊かに、より自由にします。

